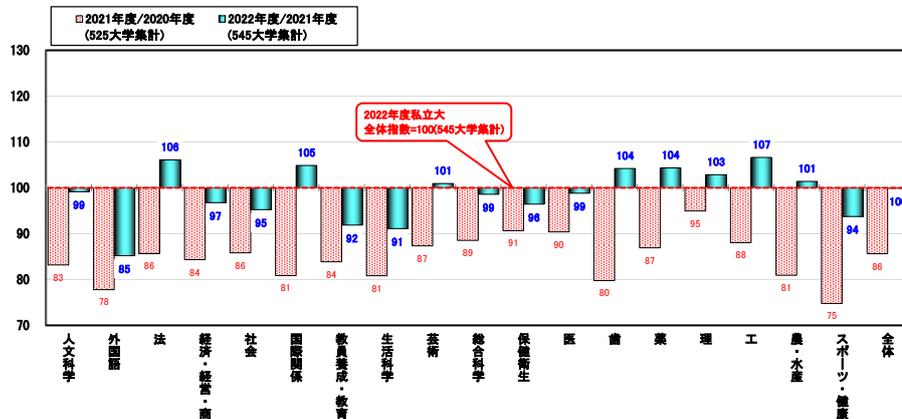


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎系統別志願状況・合格状況

□志願者数は工、法、国際関係、薬などがやや増加、
 外国語は大幅減少、生活科学、教員養成・教育が減少
 [私立大一般選抜 系統別志願状況]



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ志願者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

この系統別では、工(107)、法(106)、国際関係(105)、薬(104)、歯(104)、理(103)がやや増加しました。一方で、外国語(85)は大幅減少、生活科学(91)、教員養成・教育(92)が減少、スポーツ・健康(94)、社会(95)、保健衛生(96)、

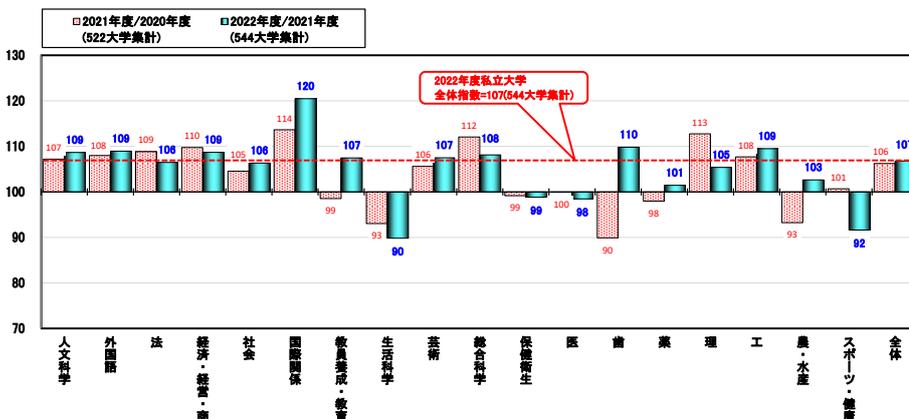
経済・経営・商(97)がやや減少でした。

それぞれの要因は、工は情報系への人気の高まりと実学志向が影響しました。法は青山学院大・法(ヒューマンライツ)の新設に加えて、コロナ禍で経済環境が悪化する中での公務員志向の高まりの影響が想定されます。国際関係はコロナ禍で敬遠される系統ですが、学習院大・国際社会科学<プラス>、武蔵大・国際教養の新設、摂南大・外国語の国際への改組などが要因です。薬はコロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことでこの系統への興味を持つ受験生の増加が影響しました。また、歯や理は前年度の反動の影響です。

一方で、外国語は先に述べた摂南大・外国語の改組に加えて、コロナ禍の影響による海外との交流制限等による勉学や将来への不安、生活科学はこの系統の学部・学科を持つ女子大の志願者数減少、教員養成・教育は教育を取り巻く厳しい環境の影響が見られます。

□合格者数は14系統で増加し、競争は緩和

[私立大一般選抜 系統別合格状況]



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

駿台が集計した私立大544大学の合格者数(107)はやや増加しました。系統別でみると、国際関係(120)は大幅増加、工(110)などは増加。国際関係は新設・改組により志願者数が増加しましたが合格者数の増加はそれを上回っており、また外国語はコロナ禍の影響や改組などが要因で志願者数が減少したにもかかわらず合格者数は増加で、いずれも大幅に競争が緩和されました。私立大の中で最も募集人員の多い経済・経営・商(109)、次いで多い工(109)をはじめ、全18系統中14系統で増加しました。

志願者数と合格者数の指数の比較では、まだ発表がない大学のある医学系(志願者指数99、合格者指数98)を除くと、13系統で合格者指数が志願者指数を上回っており、競争の緩和が見られました。「合格者指数-志願者指数」

願者指数」の値が大きいのは、外国語(+23.7)、国際関係(+15.6)、教員養成・教育(+15.6)でこれらの3系統の競争の緩和が大きいといえます。